

岐阜工業高等専門学校

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル） 自己点検評価

評価会議名称：点検評価・フォローアップ委員会

参加者：点検評価・フォローアップ委員長、各学科点検評価・フォローアップ委員

目的：令和6年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

基本的要素	モデルカリキュラム対応箇所	対象科目	内部評価
<p>I. データ表現とアルゴリズム： データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎（統計数理、線形代数、微分積分）」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。</p>	<p>1-6. 数学基礎 1-7. アルゴリズム 2-2. データ表現 2-7. プログラミング基礎</p>	<p>数学B(1年)・数学AⅠ(2年)・数学AⅡ(2年)・数学B(2年)（全学科共通） 情報リテラシー・情報処理Ⅰ・数値計算法（機械工学科） プログラミング（電気情報工学科） 電子制御工学概論・情報処理Ⅰ・情報処理Ⅱ・情報処理Ⅲ（電子制御工学科） コンピュータリテラシー・数値計算法（環境都市工学科） 情報処理・デジタルデザインⅡ（建築学科）</p>	A
<p>II. AI・データサイエンス基礎： AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。</p>	<p>1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス 1-2. 分析設計 2-1. ビッグデータとデータエンジニアリング 3-1. AIの歴史と応用分野 3-2. AIと社会 3-3. 機械学習の基礎と展望 3-4. 深層学習の基礎と展望 3-5. 生成AIの基礎と展望 3-10. AIの構築と運用</p>	AI実践	A
<p>III. AI・データサイエンス実践： 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。</p>	AI・データサイエンス実践（演習や課題解決型学習）＜データ・AI活用 企画・実践・評価＞	AI実践	A

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A：審査項目の観点通りの成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応案が立案され、対応に着手している。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けての対応案が立案されていない。